

「家庭決算書」 Q & A

	家庭決算書について
Q	家庭決算書はどのような内容なのか。
A	<p>家庭決算書は、財産対照表と消費損益計算書という2つの報告書から構成されています。財産対照表は家庭の財産の状態を表すもので、資産、負債と正味財産という内容で構成され、資産は負債と正味財産の合計に一致します。</p> <p>また、消費損益計算書は、家庭の収入から消費を差し引いて消費損益を計算するものです。</p> <p>財産対照表と消費損益計算書はバラバラではなく、両者が一体となって構成されており、どちらか一方が欠けてしまうと家庭の経営には役立ちません。</p>
Q	家庭決算書のスタートは、1月からでないとだめでしょうか。
A	<p>そのようなことはありません。購入した月から始めて問題はありません。</p> <p>ただ、月の途中から始めるのではなく、その月の初めからスタートすることをお勧めします。また、当社の家庭用会計ソフト「家庭決算書」は、会計期間を給与所得者の計算期間である暦年基準にしたがい、1月1日から12月31日に確定してあります。</p> <p>したがって、年の途中から開始された場合でも12月31日で決算を迎えることになります。</p>
Q	家庭決算書の作成手順はどのようになっていますか。
A	<p>(1) 現時点の資産や負債の内容を示す「初期・財産対照表」を作成します。</p> <p>(2) 家庭の消費生活の現金や普通預金などの取引内容を記帳します。</p> <p>(3) これらのすべての取引を科目ごとに分類、集計します。</p>

	<p>(4) 科目ごとに分類、集計されたすべての取引を、決算を行い財産が増減するものと、収入、消費が発生、消滅するものに分けて、家庭決算書を作成します。</p> <p>(5) 決算で作成した財産対照表を、翌年度へ繰り越します。</p>
Q	今年度版のデータは来年度版のデータに継続できますか。
A	<p>できます。家計簿と違って、今年度版の決算後の財産対照表のデータは、来年度版の最初のデータとして継続していきます。さらに、翌年度版へと毎年、毎年、決算後の財産対照表のデータは、継続していくことができます。</p> <p>ただし、家庭用会計ソフト「家庭決算書」は、今年度版と来年度版とは別ソフトなので、来年度版への繰越は、今年度版の「年の終わりに」の「来年度の財産対照表」の数字を、来年度版の初期設定で、新たに入力していただくことになります。</p>
Q	家庭決算書は、複式簿記を応用して作られていると書いてありますが、従来の家計簿との一番大きな違いは何ですか。
A	<p>従来の家計簿との一番大きな違いは、計算記録の結果が、毎年、毎年、継続して、つながっていくのか、いかないのかという点です。</p> <p>従来の家計簿のメインテーマは、「節約・貯蓄」「予算と実績の比較・チェック」でした。しかし、この家計簿は単式簿記といわれ、記録した計算結果は1年で終わってしまい、来年にはつながっていきません。また、家計簿では、クレジットカードやインターネットによる取引など複雑な取引に対応できません。</p> <p>そこで、このような欠点を補うため、複式簿記の考え方を取り入れた、新しい家庭経営のツールとして考え出されたのが、「家庭簿記」(家庭用複式簿記)です。</p> <p>「家庭簿記」によって作られる「家庭決算書」は、自分達で計算した記録の結果が、1年で終わることはなく、来年へとつながっていきます。</p>
Q	複式簿記というと難しそうですが。

A	<p>「家庭決算書」を利用するにあたっては、複式簿記や会計の知識をとくに必要としません。</p> <p>現金や預金などの入出金の金額を入力するだけで、自分たちの家庭の「財産対照表」と「消費損益計算書」が計算されて、家庭経営に役立つようになっています。</p>
Q	家庭経営をしていく上で大切なことは。
A	<p>自分の意思で家庭を経営することです。そのためには、自分達にとって必要な正しい情報を入手することです。情報にはマスコミや友人など外部から得られる情報と自分で作った内部情報があります。</p> <p>家庭決算書は自分で作った、自分達の情報で、この情報を持つことによって家庭生活におけるさまざまな場面で、満足できる管理が可能となるのです。</p>
	初期設定について
Q	「消費科目名」がすでに設定されていますが、新たに科目設定を追加したり、変更したりできますか。
A	<p>できます。「日常生活費」と「その他生活費」の科目名は、「消費科目の追加・変更」ボタンから追加・変更することで、30科目まで自由に科目名が設定できるようになっています。</p>
Q	「初期設定」で入力する土地、マンションなどの不動産や有価証券の時価評価額は、すべて厳密に計算しないとだめでしょうか。また一部入力漏れがあった場合、あとで訂正はできますか。
A	<p>「初期設定」は、すべて正しく入力することがベストですが、あとで価額の変更、追加入力などの訂正が可能です。まず、現状でわかる金額を入力してスタートすることをお勧めします。</p>
Q	初期設定はたくさん科目があって、私には難しく思われます。それで、最初の入力、いま分かる現金と普通預金だけ入力してスタートさせても、問題はないでしょうか。

A	問題ありません。いまわかる財産（たとえば、現金、普通預金、借入金など）を入力してスタートし、あとでわかったものを順次追加計上し、自分たちの財産の内容を充実させていくとよいでしょう。
Q	預金残高がマイナスの場合、初期設定の入力は、どのようにしたら良いでしょうか。
A	初期設定の普通預金の残高がマイナスの場合でも、マイナスの金額のままで入力してください。
	入力について
Q	お米券や図書カード等の商品券などは、どのように処理したらよいのでしょうか。
A	<p>お米券や図書カード等の商品券は、現金等価物（通貨代用証券）として処理すべきものですが、現金と区分して扱ったほうが管理しやすいと思います。</p> <p>現在、家庭決算書では、特に区分をしておきませんので、「その他資産」の欄に「商品券」という科目を設定されて、使われるとよいと思います。</p> <p>（１） 現金５００円で商品券を購入した場合</p> <p>現金入力で相手科目その他資産（商品券）を選択し、</p> <p>支出５００円を入力します。</p> <p>（２） 商品券５００円分をプレゼントされた場合</p> <p>振替帳画面で、</p> <p>左方 商品券 / 右方 その他特別収入 ５００円</p> <p>を入力します。</p> <p>（３） 商品券５００円で本を購入した場合</p> <p>振替帳画面で、</p> <p>左方 新聞図書費 / 右方 商品券 ５００円</p>

	を入力します。
Q	クレジットカードや電子マネーなどで購入した際に、カード会社のポイントが付く場合があります。この場合の処理はどのようにしたらよいのでしょうか。
A	<p>カード会社のポイントの処理</p> <p>(1) カード会社のポイントが10円分付いた場合</p> <p>「カードポイント」入力画面で、入出金は「入金」、相手科目は「カードポイント収入」、金額は「10円」を入力します。</p> <p>(2) 食糧品の購入にカードポイント10円分を利用した場合</p> <p>「カードポイント」入力画面で、入出金は「出金」、相手科目は「食糧費」、金額は「10円」を入力します。</p> <p>(3) カード会社のポイント10円分が、期限切れなどで失効した場合</p> <p>「カードポイント」入力画面で、入出金は「出金」、相手科目は「カードポイント損失」、金額は「10円」を入力します。</p>
Q	定期預金を解約し、普通預金に入金された場合の処理はどのようにするのでしょうか。
A	<p>定期預金を解約した場合、定期預金の元金部分と利息部分の合計金額が普通預金に振り込まれます。「初期・財産対照表」に計上した定期預金額に利息金額分が計上されていない場合は、以下の2つの入金処理が必要です。</p> <p>(1) 「普通預金」入力画面で、入出金は「入金」、相手科目は「定期預金」、金額は定期預金に預け入れた元金金額を入力します。</p> <p>(2) 「普通預金」入力画面で、入出金は「入金」、相手科目は「受取利息」、金額は利息金額を入力します。</p> <p>なお、「初期・財産対照表」に利息金額も含めた金額（満期金額）が計上されている場合は、上記（1）の入金処理のみ行います。</p>

Q	収入から消費を差し引いた当期消費損益が赤字になってはいけませんか。
A	<p>家庭経営では、当期消費損益が赤字だからといって必ずしも悪いということではありません。例えば、今年の当期消費損益が赤字の場合には、正味財産も同じ金額だけ減少しています。しかし、大切なのは、赤字の原因をはっきり理解することです。たとえ赤字だからといって、お金を消費したことによって得られる満足、すなわち消費満足が高ければ問題はありません。そして、健全な家庭経営を維持し、自分達に合った、バランスの取れたお金の使いかたを研究することが大切なのです。</p>
Q	オークションや古本屋への売却による現金収入の計上方法はどのようにすればよいのでしょうか。
A	<p>オークションや古本屋への売却による収入は、毎日あるものではないので、消費損益計算書の「特別収入」の「その他特別収入」という科目をお使いになるとよいと思います。</p> <p>「現金」入力画面で、入出金は「入金」、相手科目は「その他特別収入」、金額は売却金額を入力します。</p>
	「出力」と「分析」について
Q	食糧費の内容の分析、たとえば、野菜とか果物に費目別に分けるとか、スーパー、コンビニとかショッピングセンターとかに、購入場所別に分類することはできますか。
A	<p>2通りの方法が考えられます。</p> <p>(1) あらかじめ「消費科目の追加・変更」ボタンから当該（補助）科目を設定しておく方法</p> <p>(2) 補助科目は追加設定せず、入力の際の「内容」欄に野菜や果物、あるいはスーパーやコンビニ名を記載しておいて、「科目月別残高」ボタンから「食糧費」の「明細」を表示して、右肩にある「CSVへの書き出し」を行い、表計算ソフトに CSV データを取り込んで加工・分類・分析する方法</p>

	<p>(1)の方法は、追加できる補助科目数に30項目の上限設定がありますし、「食糧費」全体としての支出額がつかみにくくなりますので、</p> <p>(2)の方法でCSVに書き出されたデータを自分達の目的に合った方法で加工・分析されるとよいと思います。</p>
Q	<p>予算実績対照表の財産対照表で毎月の予算を入力しましたが、予算の留保財産の数字が自動計算されません。</p>
A	<p>予算実績対照表の財産対照表の留保財産は自動計算されないように設定されています。</p> <p>それは、予算の場合、財産対照表と消費損益計算書の当期消費損益の金額が一致しなくなるためです。</p> <p>一般的に、予算編成の際には、消費損益計算書の当期消費損益のほうが必要とされるため、そちらを優先しています。</p>
Q	<p>食糧費、交通費など月別にその推移を知りたいのですが、その方法は、ありますか。</p>
A	<p>2通りの方法があります。</p> <p>(1)「科目月別残高」ボタンから、推移を知りたい科目を選択すると、「月別残高(月別合計金額)」と「月別推移」の簡易グラフが表示されます。</p> <p>もっと詳細な推移を知りたい場合や分析を行いたい場合は、「明細」ボタンから「元帳」画面を呼び出し、右肩の「CSV への書き出し」をクリックしてデータを保存します。保存したデータをエクセルなどの表計算ソフトに取り込んで加工することで、科目別の推移や全体の推移など、自分たちの目的に合った分析が可能になります。</p> <p>(2)「消費損益月次推移表内訳」ボタンをクリックすると、各科目の月別の合計金額が一覧表で表示されます。グラフ等を作成して詳細な分析を行いたい場合は、左肩の「保存(フロッピーディスク・マーク)」ボタンをクリックしてデータを保存し、表計算ソフトに取り込んで加工することができます。</p>
Q	<p>「家庭決算書(消費損益計算書と財産対照表)」は、1カ月間の入力が終わってから見るものでしょうか。</p>
A	<p>特に決められていません。「家庭決算書」のデータは入力ごとに更新されますので、「消費損益計算書」「財産対照表」のみならず、「科目</p>

	月別残高」「予算実績対照表」「消費損益月次推移表」「同内訳」のデータも、入力したその場で、いつでもチェックすることができます。
Q	食糧費などの入力データを品目ごとに並べ替えるなどして分析したいのですが、方法がありますか。
A	<p>「科目月別残高」で「食糧費」を選択し、「明細」をクリックして「元帳」を開くと、月毎の日別明細一覧が表示されます。右肩にある「CSV への書き出し」 ボタンをクリックすると、CSV ファイルとしてデータ保存ができます。エクセルなど表計算ソフトの機能を利用して、入力データの加工・分析が可能となります。</p>
	その他
Q	このパソコンを新規に購入しましたが、シリアルナンバーを忘れてしまいました。再発行は、出来るのでしょうか。
A	<p>代金のお支払い及びライセンスキーの管理は、すべてベクター社に依頼しております。</p> <p>したがって、この件については、直接ベクター社のほうへ問い合わせをしていただきたいと思います。</p> <p>(参考)</p> <p>ベクター社の再発行のサービスは、つぎのようになっております。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ベクター社のホームページのトップを開く (2) ご利用案内の利用者の方へをクリック (3) PC ショップをクリック (4) Q&A お問い合わせをクリックし (5) ライセンスキー到着後 (ライセンスキーが正しく認識されない) をクリック <p>してください。</p> <p>また、URL は、次のようになっています。</p> <p>http://shop.vector.co.jp/service/man/faq.html#Q022</p>